



第20回 飯田市地域史研究集会

飯田下伊那の学制と地域社会 —「人づくり」から「ひとなる」へ—

開催しました

9月9日・10日に「飯田下伊那の学制と地域社会 —「人づくり」から「ひとなる」へ—」をテーマとして第20回飯田市地域史研究集会を開催しました。社会の大きな変化の中で、地域における学校のあり方も再考を求められています。今回の研究集会では、こうした現代の課題も念頭に置きながら、人びとの学びの歴史を考えることを目指しました。



会場の様子



1日目の討論

(中央左：遠山善治さん、中央右：田中雅孝さん)

1日目の第1部「飯田下伊那における学びのあゆみ」では、最初に木村元さん（青山学院大学）が講演「地域と学校の関係史—地域にとっての学校／学校にとっての地域—」を行い、日本における学校の歴史展開を、近代学校→「日本の学校」→戦後の学校→現代の学校という4段階で整理し、その特徴を明らかにしました。続いて飯田下伊那に即した3本の研究報告が行われ、多和田真理子さん（國學院大學、歴史研究所顧問研究員）は、創設期の飯田学校（現・追手町小学校）と地域との関係を、事務担当者・教員・生徒・運営資金の側面から考察しました。遠山善治さん（下伊那農業高校創立100周年記念誌編纂委員会）は、下伊那農業高校の創立から現在までの足跡を、豊富な写真とともに紹介しました。さらに田中雅孝さん（歴史研究所調査研究員）は、松下千尋というひとりの青年が、軍隊や青年学校指導員などの経験を通して自己を形作る過程を描き出しました。

2日目の第2部「学びの歴史を記録し引き継ぐ」では、現在の学校と地域の取り組みに着目し、3本の実践報告が行われました。坂下力さん（元千代小学校）は、地域の戦争体験と向きあった千代小学校6年生の学びについて紹介しました。田添莊文さん（竜丘小学校開校150周年記念誌編集責任者）は、150周年記念誌の制作を踏まえ、学校資料の保存と活用の重要性を指摘しました。松島高根さん（下市田学校応援隊）は、旧下市田学校校舎の活用の様子と、その保存をめぐる歴史を紹介しました。

また、2日目には、自由論題報告として、春日宇光さん（飯田市教育委員会）の報告「飯田における百済系土器とその意義」と、伊藤悠（歴史研究所研究員）の報告「明治・大正期の松川入における河川と山林利用」もありました。

今回は、オンラインも併用しつつ、4年ぶりに対面で開催することができ、2日間で延べ156人の参加を得ました。全体討論で司会の田嶋一さん（國學院大學名誉教授）が指摘したように、いま「ひとなる」ことを改めて考える意義が明らかになったように思います。

なお、開会式の中で、飯田歴研賞2023の授賞式も行いました。受賞作品を次ページで紹介しています。

羽田真也（歴史研究所研究員）



坂下力さん



田添莊文さん



松島高根さん

飯田歴研賞2023 受賞者コメント

飯田市歴史研究所では、前年度に発表された飯田・下伊那の地域史研究に関する優れた作品に対し、飯田歴研賞をお贈りしています。2023年度は2つの作品が受賞され、9月9・10日に開催された飯田市地域史研究集会において授賞式を行いました。受賞者のみなさまからのコメントを紹介します。

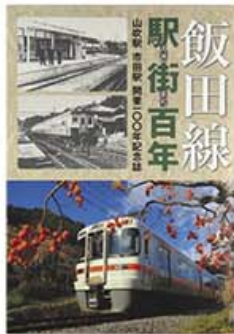
● 論文賞 ● 玉木寛輝「戦前期日本の「ファシスト」の在郷軍人への接近と乖離—北吟吉と長野県下伊那地域の在郷軍人を中心に—」（『近代日本研究』第39巻）



この度は飯田歴研賞（論文賞）に選出いただきましたこと、大変光栄に存じます。もうすでにかれこれ10年以上飯田市歴史研究所に通い、在郷軍人会・信州郷軍同志会について調べを進めて参りました。飯田・下伊那地域については掘れば掘るほど新たな歴史が出て参りますが、私がおこなった歴史の宝庫の恩恵にあずかっているのも、ひとえに史料を残そうと尽力されてこられた方々のおかげです。研究所の皆様にもいつもお世話になっており、深謝に堪えません。

飯田・下伊那地域の研究を始めたきっかけは、何気ない理由からでありましたが、研究を進めるにつれ、私の曾祖父が現在の飯田線に深くかかわった櫻木亮三であることも分かり、これは運命であろうと感じている次第です。引続き飯田・下伊那地域の研究に貢献できるように精進して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

● 奨励賞 ● 高森町飯田線開通百周年記念事業実行委員会『山吹駅 市田駅 開業100年記念誌 飯田線 駅えき 街まち 百年』（2023年3月）



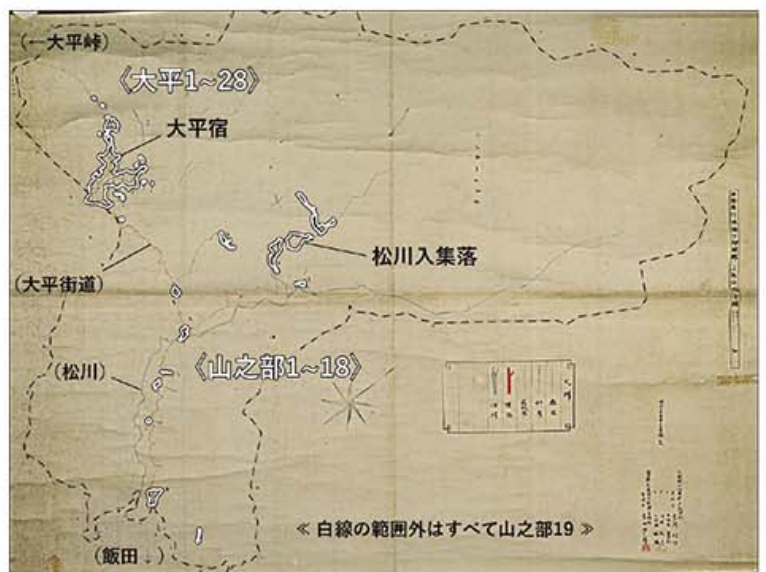
思わぬ受賞に関係者一同感動、とても感謝しています。2023年3月に、高森町に伊那電気鉄道が開通し100周年を迎えるに当たり、多くの記念事業を企画、その一つに後世に残していかなければならない記念誌の発行がありました。飯田線に関しての資料集めを進める中で、広く町民からの資料や写真提供を呼びかけ、各家庭に眠っている貴重な記録が集まりました。また、気楽な座談会方式の聞き取り取材から、飯田線が住民生活に深く関わってきた事を実感致しました。山吹駅では当時の変電所や歴史が偲ばれる景観が残っていて駅界隈の歴史を再確認でき、また市田駅では出砂原商店街100年の様変わりとその記録の整理ができました。記念誌の完成時には、歴史民俗資料館で資料展示と共に、本をテキストに学習会を実施しました。短時間でのまとめでしたので編集締め切り後に新たな資料も出てきたこともあり、出版して終わりではなく、奨励賞に相応しく今後も歴史の掘り起こしに努力して参ります。

研究紹介 明治時代の松川入地籍図

飯田市の北西、大平街道を奥に入った松川の上流域に、江戸時代から昭和にかけて飯田に大量の薪材・炭材を供給した「松川入」と呼ばれる山林があります。飯田市役所の税務課には、この松川入を描いた明治25年の地籍図が保管されています。

右の一枚は松川入の全体図で、表題にく上飯田村全図 乙とあります。松川入は飯田城下（飯田町）とその周辺村落の共有林でしたが、題名からわかるように、明治時代には形式上、上飯田村に編入されていました。恐らく上飯田村全図のうち甲が平地部を、乙が松川入の山間部を範囲とするのでしょう。

松川入は非常に広いので、これはあくまで見取図で、実際の地籍図はこの範囲をさらに「山之部」第1～19号、「大平」第1～28号に分割して作成されました。このうち山之部19号は山奥の山林区画を記載する非常に広域な図ですが、残る山之部1～18号、大平1～28号の図（右図実線内）には、それぞれ松川入集落・大平宿の土地利用が詳細に描写されます。二つの集落は1960、70年代の集団移住により無人になりますが、この時期の地籍図からは宅地・耕地の分布がはっきりと読み取れます。なかでも松川入は幕末から明治初年によく集住がはじまるので、この地籍図にはそこから30年も経ない未成熟な集落の姿が現れていることとなります。松川入に現在集落の面影はほとんど残っていませんから、本図は往時の姿を知ることでできる大変貴重な史料といえます。



岩田会津（歴史研究所研究員）

十年一昔

金澤 雄記 (広島工業大学/元歴史研究所研究員)

2006年より5年間、初代建築史の研究員として在籍し、主に本棟造民家や養蚕民家、農村舞台などの調査研究を行っていましたが、飯田を離れてちょうど10年経ち、飯田のことがすっかり浦島太郎状態になってしまいました。昨年春にお練り祭りに合わせて飯田に行った際に久々にグルッと飯田市内を走ってみましたが、リニア建設で上郷や上久堅のあたりの風景が変わっていたものの、昔調査させていただいた建物や風景が変わらず残っていて、またお世話になった方々にもお会いできて大変懐かしく思いました。変わらない建物や風景のありがたみをひしひしと感じました。

歴研を離れてからは鳥取県の米子高専にお世話になり、米子城の復元的研究と城下町に残る町家の研究を学生とともに行っておりました。建築学科で学んだこともあり、建物のデザインや構造そのものが好きだったわけですが、歴研での調査研究を通じて、建物をだれがいつどのように使うのか、だから建物はこうなっているんだという生活や生業との関わりの視点で建物を見るようになり、建物を見る楽しみが深くなりました。そのあたりのことは2月の飯田アカデミアでお話ししようと思います。お会いできることを楽しみにしております。

現在は図らずも17年ぶりに故郷に戻り、広島工業大学で宮島の町並みなどの調査研究を行っております。実家や出身校の周辺には都市高速ができ、住宅街や地形がすっかり失われていて、飯田に感じた思いとは逆に哀愁を感じました。

厚く御礼申し上げます

坂口 正彦 (大阪商業大学/元歴史研究所調査研究補助員)

私は2003年の飯田市歴史研究所発足と同時に、近現代史を学ぶ大学院修士1年生として飯田に通いはじめました。2008年度からの3年間は歴史研究所臨時職員として飯田に暮らす幸せに恵まれました。歴史研究所での業務内容は、将来的に公文書館の機能を持つために飯田市役所の非現用文書(保存期限が過ぎた文書)のうち、「歴史的に価値がある」と判断されるものを保存するというものでした。非現用とはいえ市役所各課の文書をみるだけでも法令を遵守し、効率性・公平性をふまえながら計画を実現していくことがいかに大変かを知ることができました。「事務」と呼ばれる仕事の背景にある創造性を自分なりに感じ取りました。

調査・研究面では近現代農村史・山村史(農村・山村に生きた人びとが何を考え、どのように生きたのかを史料にもとづき考えること)を歴史研究所にて1から学びました。2004年8月(修士2年)には歴史研究所の研究助成を利用し、飯田に1か月住み込んで昼は史料調査・夜はアパートにて史料を分析しました。深夜の古いアパートにて「歴史研究こそわが人生!」と(心の中で)叫んだその時から、私の道はスタートしました。歴史研究所が、限られた予算のなかでも教育機関として機能してきたことを示すエピソードの1つと考えます。

大きな変容を経験するこれからの100年(以上)において、飯田・下伊那の人びとが生きた証を語り継ぎ・書き継ぐ歴史研究所の役割はますます大きなものになると考えます。慈愛の心をもって接していただいた歴史研究所、および飯田・下伊那の皆さま、本当にありがとうございました。わが子がもう少し大きくなりましたら、私も地域史の担い手の1人になりたいと存じます。

地域史講座

「百姓としての自覚 ―二木家文書からみた兵農分離―」

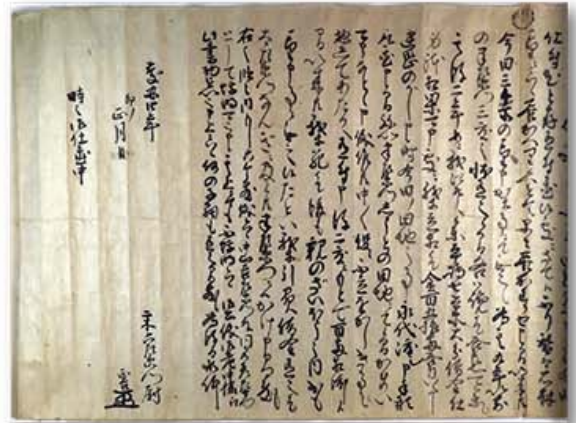
10月21日（土）14:00～16:00

会場：龍江公民館

講師：吉田ゆり子

（東京外国語大学／歴史研究所顧問研究員）

「今田村屯人百姓」として知られる二木六左衛門家文書が、2021年度、飯田市歴史研究所に収められました。この文書群を紐解くことで、龍江から千代に及ぶ地域の歴史を明らかにすることができます。加えて、「百姓としての自覚」ともいえる身分意識が表出した慶安4(1651)年の遺言状は、江戸時代の身分社会の形成を考えるためにも、たいへん貴重で興味深い史料です。今回の講座では、二木家文書の紹介をしながら、とくにこの遺言状に注目し、二木家が百姓身分として今田村に本拠を定めた経緯と身分意識を読み解いていきます。



六左衛門書置之事（二木家文書）

申込方法：10月19日（木）までに電話・FAX・メールのいずれかでお名前と電話番号をお知らせください。

定例研究会

▶明治期下伊那の文化と青年

報告者 竹村雄次（歴史研究所調査研究員）

開催日 11月25日（土）

時間 14:00～16:00

会場 歴史研究所 研修室

※聴講をご希望の方はお電話ください

飯田アカデミア2023 今後の予定

第101講座

講師：金澤雄記さん（広島工業大学、日本建築史）

日時：2024年2月24日（土）・25日（日）

会場：飯田市役所C棟3階会議室

第102講座

講師：池田嘉郎さん（東京大学、西洋史・現代ロシア史）

日時：2024年3月23日（土）・24日（日）

会場：飯田市役所C棟3階会議室

歴研ゼミ&ワークショップ10月・11月の予定 会場：歴史研究所 研修室

受講生
募集中!!

近世史ゼミ

担当：羽田真也（研究員）

10月11日・25日／11月8日・22日

（第2・第4水曜日）18:30～20:30

満洲移民研究ゼミ

担当：本島和人（調査研究員）

齊藤俊江（調査研究員）

第141回 10月7日／第142回 11月4日

（第1土曜日）10:00～11:40

近現代史ゼミ

担当：田中雅孝（調査研究員）

10月28日／11月25日

（第4土曜日）10:00～11:40

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

10月4日・18日／11月1日・15日

（第1・第3水曜日）19:00～21:00



ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL：0265-53-4670

開所時間：午前9時～午後5時 休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日
メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: iihr@city.iida.nagano.jp まで